

令和5年度 学校評価一覧シート

愛知県立半田工科高等学校

項目担当	本年度の重点目標	(1)生徒個々の能力の向上を図る。 (2)地域への情報発信をより高め、開かれた学校づくりを推進する。 (3)組織内で相互理解を深め、協力体制を構築する。 (4)校務の効率化、適正化を推進し、業務改善を図る。	
	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携を深める ・式典行事の円滑な運営 ・防災教育の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の活性化に努める。また、PTA活動等の案内について、メール配信等を積極的に活用する。 ・職員間の協力体制を整え、式典行事に取り組む。 ・防災意識の向上につながる防災訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の活性化につながるよう、他分掌との連携を深める。 ・生徒が規律ある態度で積極的に式典行事に臨めるよう、整列指導を丁寧に行う。 ・避難訓練や防災教育等の計画の見直しを図り、防災意識の徹底を図る。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 ・広報活動の充実 ・学科選択、科目選択の十分な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高める。 ・中学校の進路説明会や、地域交流を通じ本校の魅力を発信する。 ・生徒の適性および進路先に応じた学科、科目選択ができるように校内連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に努め、家庭学習の励行も継続的に呼びかけ、学力向上を図る。 ・分掌、学年会等の連携により実施する。 ・生徒自ら考え、主体的に選択できるように指導する。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的行動の確立 ・安全・安心な学校生活の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・いじめの未然防止、早期発見、適切な対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時において挨拶の励行、みだしなみ確認、事故防止に配慮した自転車の乗り方指導を実施する。 ・人権に関する指導の充実と交通事故の防止及び薬物乱用防止に努める。 ・生活アンケートを利用した情報収集と、家庭や地域社会との連携を図り、いじめの未然防止・早期発見に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・教職員・保護者と連携し、生徒の主体的行動の実現を図る。 ・命の大切さを伝えるとともに、交通事故の防止、薬物乱用防止に努める。 ・全校集会やHRにおいて、いじめは許されない行為であると生徒に理解させる。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚 ・自分に合った進路選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標を持たせ、自己実現に必要な能力を伸長できるように援助する。 ・勤労観・職業観を育成するため、進路への知見を広めさせる情報提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの意志と責任で進路を選択決定できるようにする。 ・自己理解を深めさせ、長期的な展望を持って選択できるようにする。

	重点目標	具体的方策	留意事項
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 健康意識の向上 感染症の予防 生徒相談体制の充実 校内美化・環境整備の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断，保健講話，毎日の健康観察を通じて健康への意識を高める。 教室の換気，手指消毒，加湿器等の適切な使用を通じて感染症等の予防に努める。 スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，担任，相談係と連携し，教育相談体制の充実を図り，情報を共有し問題解決に取り組む。 清掃を毎日全員で実施し，ごみの分別と減量を図り，校内美化・環境整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員を中心とする，朝の健康観察・各種検診を通じて，健康への意識向上を図る。 保健通信等により，感染症に対する知識と対応を啓蒙・周知する。 教育相談委員会，相談係を通じて協力体制をつくりケース会議を行い，生徒情報の共有と対応を図る。 厚生委員によるごみの分別作業を行い，ごみの分別と減量をよびかける。
図書情報部	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用者の向上 校内の ICT 強化 広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館だより」を通じて本や企画の紹介を行い，図書館利用を呼びかける。 ICT 機器を各教室に設置をし，授業展開の ICT 化を図る。 宣伝資料の作成やホームページを更新し，中学校の教員や生徒および保護者，企業関係者に積極的に P R する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「図書館だより」の内容を充実させ，生徒の興味・関心を引き，利用しやすい環境を整える。 図書情報部以外の分掌や職員と連携して，早期設置を実現させる。 必要に応じて関係各所にホームページの更新を依頼する。また，「工科 Times」「半工 Girl's ライフ」を地元の中学校の教員や生徒および保護者だけでなく，企業関係者にも配布する。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の充実 部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 執行部の生徒と企画について話し合い，時代や生徒の実情に応じた内容とする。 体験入部期間を設けて 3 年間活動する部活動を真剣に考えると同時に，校内，校外への情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り生徒が積極的に参加できる内容を増やすと同時に，効率化も模索していく。 部活動紹介動画の作成，HP に活動状況を載せたりして，生徒のやる気を引き出し，校外への P R としても活用する。
工務部	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ精神の育成 中学生体験入学の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 資格の情報を正確に素早く提供し，資格取得に対し前向きに取り組む姿勢を育てる。 体験入学の案内や実施方法を検討し，中学生が興味を引く内容を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページにある資格に関する工務の情報更新や掲示物をタイムリーに行う。 各工業科や各分掌と連携をとり，学校全体で実施する。

	重点目標	具体的方策	留意事項
ロボット工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・工業人としての意識付け ・ロボット工学において必要となる知識の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・課題研究や座学の授業，定期考査を大切にす。そのため授業の開始時間の厳守や，あいさつ，正しい言葉遣いをはじめとした授業規律を確立し，自ら学習できる環境を整える。 ・協働ロボットの制御や，シーケンス制御などをはじめとした，『設備設計・製作』の考え方を基本とし，日々の授業で力を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間での情報交換を大切にし，多くの方面から指導できるように心がける。 ・課題や報告書の提出を，しっかりと行わせる。 ・他学科との情報交換を積極的に行い，授業内容の見直しを随時行っていく。
機械科	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度の醸成 ・工業人としての意識の向上 ・学習内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・製図や資格・検定や就業体験などの体験を通し，専門学習に力を入れる。 ・安全教育，5S活動など工業の現場で重要視される事柄の定着を図る。 ・授業・実習の連携した展開を進める。座学内容を精査し重複を避け，力点を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ姿勢を養えるように授業，実習の課題を研究する。また，自主的な学習(資格・検定等)を奨励する。 ・実習点呼時に安全意識が定着するようなスピーチを慣例化する。 ・新しい観点別評価を念頭に置き，不断の授業・実習の改善に取り組む。
電気科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実 ・職業人としての資質の育成 ・魅力ある学科づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や資格取得の補習を通して，基礎学力及び電気に関する知識と能力を高める学習指導をする。 ・積極的に生徒へ寄り添い，規範意識の育成，挨拶の励行，正しい言葉遣いを実践しコミュニケーション能力の育成を図る。 ・競技大会や地域イベントに積極的に参加し，生徒が活躍できる機会を提供し外部へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の能力や活動状況を把握し，適切な目標を持って取り組ませる。 ・学級担任や部活動顧問などと連携を図り，生徒情報を共有し適切な指導を行う。 ・自己表現ができる場に，多くの生徒が参加できるよう広く声がけをする。
建築デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実 ・専門科目への学習意欲向上 ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学や，かわら版をとおして学科の魅力を発信する。 ・生徒が達成感を得られるよう指導内容を工夫改善する。 ・建設業の魅力を伝え，卒業で受験資格が得られる二級建築士に挑戦する生徒を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生の学科への興味関心を高め，中学生に魅力を伝えられるようにする。 ・生徒の技量も見極めながら，教員間で指導内容を検討する。 ・建物は人の命を直接守っていることを機会あるごとに伝え，興味と使命感を持ち続けられるようにする。
都市工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業において必要となる知識の習得 ・基本的な生活習慣の育成 ・地域社会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎，基本を重視し，就業を意識した授業展開を実施する。 ・礼儀，はじめ，正しい言葉使いを教え，社会人としての心構えを教授する。 ・地元企業を中心とした繋がりを大切にし，現場見学会，出前授業等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導ができるよう，授業進度および展開に気を付ける。 ・職員間での情報交換を大切にし，一方的な指導にならないように努める。 ・生徒の進路希望にも配慮し，現場見学会，出前授業等を検討する。

	重点目標	具体的方策	留意事項
1年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・規律の確立 ・資格取得の励行 ・学科選択の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの活動における声掛けやコミュニケーションを取りやすい関係を作りながら指導する。 ・授業や補習を通して、自学自習できるよう指導する。 ・実習や座学を通して、工業への興味関心を高め、個々の能力にあった学科選択の指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のあらゆる場面で指導できるように教員間で共通理解のもと取り組む。 ・生徒自ら意欲的に取り組めるように目標を持たせる。 ・生徒の希望や適性から食い違いが起きないように他学科と連携し、共通理解のもと取り組む。
2年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識の高揚 ・生徒個々の学力の向上 ・自ら考え主体的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携をはかり、ガイダンスの充実や職業や学問に対する理解を深め自己実現ができるように援助する。 ・授業や補習の工夫改善を図り、生徒の知識と能力を高めるよう指導する。 ・時と場所に応じて適切な行動がとれるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標を設定し、目標に向かって生徒自ら行動し選択決定できるようにする。 ・生徒個々の能力を把握し、適切な目標を持って取り組ませる。 ・コミュニケーションや協調する力を伸ばし、社会人としての心構えを育成する。
3年学年会	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の習得 ・適正な進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての意識付けや、修学旅行での行動を通して、社会人として必要なマナーやモラルを高める。 ・面談や進路指導講話等を通して、生徒の特性を理解し、適切な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが意識して、その場にふさわしい行動が取れるようにする。 ・生徒の要望を踏まえ、より良い進路選択ができるように助言する。
	学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立について ・学校行事、部活動の充実・発展について ・資格取得の推進について ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組について ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めることについて 	